

東日本大震災における母子避難の問題

立教大学 廣本由香

問題関心の所在

❖ 問題の背景

- 東日本大震災、続く福島第一原発事故で県外避難した多くは母子避難であり、避難母子は地域社会や父親と離れた避難生活を送る。
- 父親を被災地において、母親と子どものみで「家」を離れることで、家族間や夫婦間で問題や分裂を生む。
- 子どもを放射能汚染から守りたいという思いで避難する一方で、避難することでの被災地・地域社会(の人々)へ後ろめたさや背徳感で、アンビバレントな思いを抱く。

問題関心の所在

❖ 主な問題意識と視点

・ 「母子避難」の選択

多くの避難者が家族避難という選択ではなく、母子避難の選択をする(選択せざるをえない)ことについて、ジェンダーや家族関係に注目し、どのようにして母子避難という選択に至ったのかを明らかにする。

- ・ 就業形態
- ・ 母親／父親の役割
- ・ 放射能に対する不安の濃淡(温度差)

問題関心の所在

❖ 主な問題意識と視点

・ 家族の「維持」「再形成」「分断」

母子避難は家族を「維持」しているのか、「再形成」しているのか、あるいは「分断」させているのかについて、家族間や夫婦間の相互関係に注目して、避難後の家族関係を明らかにしたい。

- ・ 原発事故以前は、「あたりまえ」「あうんの呼吸」で運営されていた家族にも、リスクをとることが求められている。

問題関心の所在

❖ 問題意識と視点

・ 母親たちのアンヴィバレンス

避難母子たちの被災地、避難先に対するコミュニティ意識について、避難母子が両者のコミュニティとどのように関わり合っているのか、両者で母子避難がどのように扱われているかに注目して、コミュニティ意識が避難のプッシュ要因またはプル要因としてはたらいているのかを明らかにしたい。

- ・ コミュニティの変容(出る/入る)
- ・ 避難格差
- ・ 母子避難へのまなざし

参考資料

- 『朝日新聞』2011.8.31, 夕刊, 2社会
 - 『朝日新聞』2011.11.10, 朝刊, 福島全県
 - 『朝日新聞』2012.3.2, 朝刊, 東特集U
 - 『朝日新聞』2012.3.14, 朝刊, 東京都心
 - 『朝日新聞』2012.5.10, 朝刊, 福島中会
 - 『朝日新聞』2012.6.19, 朝刊, 福島全県
-
- 『アエラ』2011.4.11, 30ページ
 - 『アエラ』2011.6.27, 10ページ
 - 『アエラ』2012.1.16, 53ページ
 - 『アエラ』2012.3.12, 24ページ